会　議　録

会議の名称	和泉市環境基本計画専門部会（令和元年度第１回）
開催日時	令和元年８月 27 日　13:55～15:50
開催場所	コミュニティセンター１階　中集会室
出席者	巖部会長　藤田委員　橋本委員　河合委員　橋本委員 梁取委員　辻委員　稲井委員 （以上８名　順不同）
事務局	環境保全課
会議形態	公開
会議の議題	■委嘱状の交付について ■巖委員の部会長への就任について ■本部会の呼称について ■議事 (1) 第３次和泉市環境基本計画の改定方針について (2) 市民・事業者意識調査案について (3) その他
会議の要旨	○橋本委員、辻委員、稲井委員が和泉市環境審議会臨時委員に就任した。 ○本部会を「和泉市環境基本計画専門部会」と呼称することとした。 ○第３次和泉市環境基本計画の策定方針（案）について概要の説明、質疑、審議を行った。 ○上記計画における市民・事業者意識調査案の概要説明について概要の説明、質疑、審議を行った。 ○上記計画に係る今後のスケジュールの確認を行った。
会議録の作成方法	□全文記録 ☑要点記録
記録内容の確認方法	☑会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他（　　）
議事要旨 【主な意見等】	1.　委嘱状の交付 【事務局】 　和泉市環境審議会臨時委員として、新たにご就任いただく委員様に委嘱状を交付させていただきます。

	2.　部会長の就任について 【事務局】 　巖委員におかれましては、平成 31 年１月 28 日付で開催されました、平成 30 年度第２回和泉市環境審議会において、和泉市環境審議会の会長より、和泉市環境審議会規則第５条第２項に基づき、本専門部会の部会長として、指名されております。あらかじめ、ご報告させていただきます。 　委員の皆様におかれましては、本日はどうぞよろしくお願いいたします。 3.　本部会の呼称について 【部会長】 　本日を持ちまして、正式に本部会を「和泉市環境基本計画専門部会」と呼称することとさせていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。 【委員一同】 　異議なし。 【部会長】 　それでは、本部会を正式に、「和泉市環境基本計画専門部会」と呼称することといたします。 4.　議事 (1) 第３次和泉市環境基本計画の改定方針について 【事務局：説明概要】 〇スケジュール 　第３次計画の策定業務は２カ年を予定しており、初年度にアンケートの実施及び骨子案の作成までを終える予定である。 　計画概要及びアンケートについて、本日議論した内容を踏まえ、10 月３日の環境審議会にて報告予定。以降、方針に基づく計画の骨子案の作成作業およびアンケートの実施を行う。来年１月に第２回専門部会を開催し、その際にアンケート結果（速報版）及び、計画の骨子案を報告予定。 　本年 10 月以降、庁内で関係各課との協議を進める予定。また、調整状況についても次回の専門部会で報告する予定である。

	第２回専門部会の内容を踏まえ、来年２月頃の環境審議会で骨子案の最終案を作成予定である。 ２年目には、骨子案に基づき目標値の設定やデータの集計方法について、関係各課と調整する。６月前後に専門部会を開催し、目標値等につきほぼ最終案を提示し、審議いただきたい。また、11 月頃にパブリックコメントを実施予定（前後の可能性あり）で、公開前には最終確認もお願いしたい。 パブリックコメント後に再度専門部会を開催、最終案を作成したうえで、令和２年末ごろに諮問答申していただき、施行を予定している。 〇基本的な考え方 基本的には第１次計画で定めた目標を引き継ぐ。ただし近年、環境をとりまく状況は大きく変化しているため、計画の目標にも反映する。 行政・市民・事業者にそれぞれについて、取組みを後押しする計画とする。 また、取組み数や情報量の整理・統合により、取り組みやすい計画とする。 〇基本目標と進行管理 基本目標の進捗状況については毎年、「和泉市の環境」の冊子にて概要を掲載する。 総合計画や個別の計画と整合性を図り、進行管理しやすい計画とする。 〇位置付けと役割 本計画は和泉市環境基本条例第８条に基づき策定する。国の環境基本計画や本市の総合計画等の上位計画などと連携し、環境行政を総合的・計画的に計画として位置づける。 〇計画の期間 長期的な目標時期は 2050 年までとする。本計画の目標期間は 2021 年度から 2030 年度までとする。策定から５年後に中間見直し・更新を行う。 〇計画の対象 環境要素として、第２次計画に記載のなかった、土壌汚染や気候変動について明記する予定。 〇全体構成 計画全体のレイアウトとしては、基本的には第２次計画と同様

	の構成にしつつ、SDGs 等を肉付けしていきたい。 　ただし、前計画では最初に基礎データが記載されているが、第３次計画では説明資料として後ろに基礎データを記載するということも考えている。 【委員】 　３つお願いがあります。 　１つ目に、環境基本計画の位置づけを説明する資料に、本計画に関連する計画としていくつかの個別計画が列挙されています。緑の基本計画の名前が記載してありませんが、追加していただきたいと思います。 　２つ目に、資料２の５ページにおいて、環境要素の表の中に、廃棄物が記載されていません。追加していただきたいと思います。 　３つ目に、２次計画策定時とは社会が変わっており、計画の対象も変わっています。プラスチックについては、ローカル、グローバルの両面で議論になっています。海の中だけでなく、生活という観点からも、プラスチックについて議論していただきたいと思います。また、市民の皆様にとっては食品ロスについても関心が高い内容だと思うので、取り扱っていただきたいと思います。 【事務局】 　回答いたします。 　１点目について、緑の基本計画も追加します。 　２点目について、廃棄物についても追加したいと思います。 　３点目について、プラスチック問題についてはタイムリーな話題であり、計画に反映したいと考えております。ご参考までに、本日は飲み物を紙コップで提供させていただいています。 【委員】 　環境要素の中に「交通」とありますが、どういう内容か教えてください。 【委託事業者】 　地球温暖化対策、エネルギー削減との関係で、交通運輸についても対象に入ってきます。例えば環境負荷の小さい公共交通は関係しますので、交通という要素も加えております。

	【委員】 　私はアスファルトは地球温暖化の大きな原因ではないかと思っており、そのために市民委員になったという面もあります。例えば気温が40℃のときにアスファルトが放出する温度は65℃に達します。一方で土ならば、それとは15℃くらい違うという研究結果があります。すべてについては難しくても、アスファルトを無くす取組みはできないでしょうか。 【部会長】 　アスファルトの温度の問題については、アスファルトをはがす以外にも透水性のアスファルトを使うなど、色々な技術的な対応があると思います。気候変動や交通等にも関係してくる内容かと思います。 【部会長】 　環境要素の表において、計画において扱う要素を羅列してありますが、環境問題としてターゲットになるのは、大きくわけて気候変動、生物多様性、廃棄物対策の３つのテーマであると思います。他の要素、例えば交通については気候変動に、山林・水辺・里山については生物多様性に関係してきます。大きな目標をはっきりさせ、環境要素を構造化してほしいと思います。 【委員】 　グリーンインフラは１つのキーワードになると思います。グリーンインフラは米国と欧州では言葉の使われ方が違います。また、国交省でもグリーンインフラに関するレポートを作成しています。例えば環境負荷の少ない形で道路を整備するといった形で関わると思います。今回の計画の中で方向性や方針を打ち出していただくことで、今後どのような選択肢があるかを検討する際の議論に発展すればと思いますので、キーワードとして触れていただければ幸いです。 【委員】 　環境と都市生活は逆行する面があると思います。今回、都市の基盤整備については触れられていませんが、道路や農地の宅地化等については議論に乗らないのでしょうか。

	【事務局】 細かい内容をどこまで入れるか、難しいところがあります。やはり環境が切り口となるので、開発にあたって環境負荷を与えないようにする、といったテーマになります。 【委員】 和泉市は南北に長く、それぞれの地域ごとに都市機能が分けられていますが、曖昧な区分になっていると思います。 和泉府中等の、道路の狭い地域で、自転車が通りやすい道路を整備することは、省エネのためにも大切かと思います。長期的な観点を持って、立体的な道路を作ることなどについて、どこかで提言しないと実現しないのではないでしょうか。 【部会長】 この計画の中で開発について細かく決めることはできないものの、今後市が何か事業をするときに、本計画の方針と事業を見比べて参照するような計画となっている必要があります。自転車にとって使いやすい道を作ることや、道路を延伸するときに透水性のアスファルトにすることについて、指針になるような計画にする必要があります。2050 年の理想的な和泉市の姿を描いたうえで、個々の開発について参照されるような計画にできればと思います。 【部会長】 個別の計画を作る際、それぞれの目標年度における理想像を定めていると思います。それぞれの目標と本計画の将来像に齟齬があってはならないと思うのですが、本計画がすべての個別目標の基礎となる、という考え方でよろしいでしょうか。 【事務局】 例えば温暖化の計画であれば、「CO_2 の 40%削減」といったように、目標がわかりやすいです。それに比べると環境基本計画は、色々なアプローチがあり、幅広いものとなっています。色々と議論いただいて、できることはできる、できないことは努力する、といった形になるかと思います。

	【委員】 　自分は環境くらぶに所属し、廃棄物を回収しながら歩く「廃棄ング」を行っているが、山中にトラックで下ろしたような廃棄物が和泉市にたくさんあります。きれいにしてほしいと思います。また、私有地の中にも廃棄物が捨てられる場所があり、取り締まりができないのかと思います。こういったゴミはやがてプラゴミとして海に行くので、なんとかしていただきたいと思います。我々も小さいゴミは拾いますが、大きなゴミは行政でないと難しいです。まず、海をきれいにするには地元からということで、なんとか対策してほしいと思います。 【部会長】 　本部会は４回しかなく、基本的な部分の変更ができるのは今のタイミングしかありません。SDGs については近年盛んに言われていますが、いかがでしょうか。 【委員】 　SDGs の観点からもアスファルトを土にすることは大切です。鳥取砂丘の土を固める糊を、NASA が研究しているというニュースを見たことがあります。最近は色々な物質が良くなってきていると思うので、アスファルト舗装を土そのものにするのは難しいにせよ、試験区間を設けて試作のようなことができればと思います。 【委員】 　自分はいくつかの行政の基本計画に関わっていますが、SDGs のそれぞれの目標と計画の紐づけをしているところもあります。今回の計画では、SDGs を基礎として基本計画があるとするのか、あるいは基本計画のそれぞれの部分をSDGsの個別の開発目標と紐づけする形にするのかによって、見せ方は大きく変わるかと思います。紐づけと言うと、「17 すべてのゴールが入っていなければならない」といったことになりがちですが、そうではなく、「計画におけるこの分野は、SDGs におけるこの分野と関係があります」といった形で提示できれば、市民にはわかりやすいと思います。 　例えば前回の計画における「みんなで考え取り組む町をつくる」という大きな目標について、SDGs の 17 の目標のうち○、○、○と関係がある、といったように、１対１対応ではなく大きな関連性

	を見ていくようにしてはどうでしょうか。 　SDGs と環境基本計画との関係を、どの程度踏み込むかによって大きく変わってくると思います。 【委員】 　SDGs はまだ浸透していないのが現状です。 【部会長】 　SDGs のためにこの計画を作るわけではないが、どちらもターゲットは 2030 年になっています。すべて対応させるのは難しいとしても、2030 年の世界を思い描いたときに具体的なターゲットが無いところについて SDGs の目標を流用するということはありうると思います。 【委員】 　計画も SDGs も 2030 年に目標設定があるので、無視はできないと思います。何もかもあてはまるのは無理があるのは承知していますが、市からそれぞれの主体が取り組めることを計画のなかに盛り込むことで、市民や事業者や団体が関心を持つきっかけになってほしいと思います。 (2) 市民・事業者意識調査案について 【事務局：概要説明】 〇アンケートの目的について ・これまでの環境政策を検証すること及び、今後の環境政策の方向性、重要分野、実行手段を検討することの 2 つが目的。 〇スケジュールについて ・本部会でアンケートの内容を審議していただいたうえで、最終案を作成予定。 ・９月に総務省に対して事業者データを提供依頼。10 月に環境審議会においてアンケート内容をご確認いただき、10 月下旬頃から１カ月程度でアンケートを実施。 ・12 月中までにアンケートの回収、集計作業。 ・来年１月の専門部会でアンケート結果の報告（速報版）。 〇調査票作成の方針について ・第１次、第２次計画におけるアンケートと比較できるように、

	一部を同じ設問としている。 ・近年注目されているSDGsや気候変動についても内容に盛り込む。 ・回答しやすい形式とする。 〇アンケートの構成について ・和泉市に関する話題と世界的な話題の２章を設けている。 ・回答しやすいように、設問の順番を変えているところがある。 例えばお住いの地域や年齢については、後ろに持ってきている。 〇実施方法について ・無作為抽出した市民2,000名と事業者200社を対象とする。 ・前回同様、郵便によるアンケートとする。回収率向上のため、 回答のあて先は和泉市としている。 ・回収率は前回同様の30数％を見込んでいるが、４割くらい回収 できればありがたいと考えている。 【委員】 アンケートは、簡素化しすぎるのもいかがかと思います。アンケートは普段意見を言いたくても言えない人にとって重要なものです。各設問の下か、ある程度設問をまとめたあとに、意見を書ける項目を設けることはできないでしょうか。 【事務局】 最終ページの下部に自由記述欄を設けています。前回はA4で１枚分が自由記述欄でしたが、あまりたくさん作るのもいかがかと思い、今回小さくしております。もし小さいようならば、欄の追加を検討させていただくかもしれません。 【委託事業者】 補足いたします。印刷の関係から、８ページにまとめることを意識して調査票案を作成しています。ただ、自由記述欄をA4で１ページにして、一方で最初の説明のページを別紙にするという方法もございますので、ご意見を反映したいと思います。１問ずつの自由記述欄の設置は、回答の際に負担に感じる回答者もいますので、最後の自由記述欄の分量を多くする方向で考えています。 【委員】 市民アンケートについて、分析を行う際には地区によって関心

	のあるテーマが異なるのではないかと考えています。調査票案では校区を尋ねていますが、分析の際には校区ではなく地区ごとの分析を想定されているのでしょうか。 【委託事業者】 分析は校区ではなく、地区ごとにまとめて行うことを想定しています。ただし、市民にとっては地区を尋ねるよりも校区の方がわかりやすいと思われるため、校区を尋ねています。 【委員】 地区ごとのクロス集計のほかに、年齢や職業、居住年数によるクロス集計は想定されていますでしょうか。 【事務局】 想定しております。 【委員】 国レベルでも市民や事業者向けに意識調査をしております。今回の事業者向けの調査票案では、環境と取引先との関係や、環境会計のようなものついて尋ねていますが、国による事業者向けアンケートと比較してほしいと思います。今回の調査票では、尋ねているのが考え方と取組みに終始していますが、考え方について会社としての意見ではなく回答者の意見になってしまうことが不安です。これまでのアンケートとの継続性もあるとは思いますが、国の事業者向け意識調査との対応を検討してほしいと思います。 【部会長】 市民向けアンケートにおいて環境情報について尋ねていますが、環境情報とは具体的にどのようなものが想定されるのでしょうか。環境に関する情報全般ならば、選択肢には新聞、書籍、テレビ、友人等も入ってくるのではないでしょうか。 【委託事業者】 前回のアンケートでは「市からどのように環境に関する情報を提供してほしいか」という設問でしたが、今回文言が一部抜けており、申し訳ありません。元々の趣旨としては、市からどのよう

	に情報を提供してほしいか、ということです。昨年度より、Facebook について市で取り組んでいるため、選択肢に含めております。 【部会長】 元々の趣旨の設問に戻しますか。 【委託事業者】 皆様のご意見も踏まえ、検討したいと思います。 【委員】 環境情報に関する設問について、何が「環境」か、人によって変わるために聞き方・答え方が難しいと思います。例えば、昨年風と大雨の際にゴミが出た時の情報入手や、電車が動かない、道路が使えないといった緊急時の情報入手について、大阪地区でも研究されています。緊急時と平素では情報のとりかたが違ってくると思います。「環境」とはなにかがわかるようにした方が、答えやすく分析のぶれが小さくなると思います。 【委員】 プラスチックの問題等、新たな問題についても、ぜひ追加項目として検討してほしいと思います。 【部会長】 特にプラスチックについては、法律が変わることもあり、事業者にどの程度対応ができているのか尋ねるような設問があってもいいかもしれません。 【部会長】 自由記述欄についてご意見がありましたが、環境に関する取組みの設問について、選択肢に含まれない項目について回答してもらうために、可能ならスペースを設けられるとよいと思います。 【委員】 グリーンインフラについても設問に盛り込んでいただきたいです。

	【部会長】 　グリーンインフラという単語はどの程度通じるか難しいところがあるので、具体的な形にする必要があると思います。「自分の暮らす町がもっとこうあってほしい」ということに関する設問があれば、そこでグリーンインフラについて聞ければいいと思います。 【委員】 　環境について、様々な良い運動があり、例えば私は環境家計簿に取り組んでいます。しかし、こういった取り組みが広がっていません。良い運動があるにも関わらず、人々が取り組まない理由を聞く質問があっても良いのではないでしょうか。 【部会長】 　様々な良い取組みがある中で、それをどう広げるかの手がかりを手に入れるのは大切なことかと思います。 【事務局】 　環境家計簿については、調査機関とも相談して、設問に入れるか検討したいと思います。 【委託事業者】 　補足いたします。様々な取組みについての設問において「実行するつもりがない」を選択された人に、その理由を聞くという設問も考えうるかとは思います。 【委員】 　環境家計簿について、そもそも「知らない」という人もいると思います。 【部会長】 　様々な取組みについて「知らない」という選択肢も必要だと思います。 【委員】 　環境に関する取組みに関する設問についていくつか指摘点があります。聞き方のばらつきを無くしてほしいと思います。例えば

	選択肢 16「ふんの後始末はきちんとする」の「きちんと」は不要です。選択肢 12「公共交通機関をなるべく使う」の「なるべく」は不要です。選択肢 15「行楽地に行って出したごみを持ち帰る」は「行楽地」に絞る必要はありません。前回との比較はわかりますが、項目間の揺れを無くし、回答の余地を少なくする必要はあるかと思います。 　また、近年の新しい制度や取り組みも踏まえてほしいと思います。例えばスーパーにおける小型廃家電の回収 BOX 設置などの取組みがあります。 【部会長】 　同じ設問について追加します。選択肢 19 に「農作業の体験学習」とありますが、体験学習ではなく自宅で農作業をしている人もいると思います。 【委員】 　同じ設問について追加します。選択肢 14「ピアノやステレオなどの騒音」の「ステレオ」は古い言葉のように思われます。 【部会長】 　だいぶ修正・見直し・検討があると思いますが、仕上げていってもらいたいと思います。 (3) その他 【事務局】 　次回の専門部会の日程調整をしたいと思います。次回は来年度の１月中旬～下旬に行いたいと思いますが、1 月 23 日午後に同じく和泉市コミュニティセンターでの開催の方向で調整したいと考えています。正式に決定したら、またご案内します。 【事務局】 　10 月３日の環境審議会において、修正版のアンケートを取り扱います。本日ご参加いただいている、稲井委員、辻委員、橋本委員にも、もしお時間があればご参加いただきたいと思います。 　ご参加いただく方には、１週間前を目途に、事前に資料をお送りします。

	【部会長】 他になにか言い残したことがあれば、お願いします。 【委員】 堺市で循環型社会に関する仕事をしていますが、そちらでは 3R ではなく 4R としています。和泉市ではいかがでしょうか。 【部会長】 いくつかのパターンがありますが。市民の間で市民権を得ているのは 3R かと思います。 【事務局】 3R をベースとして、皆様と議論して今後検討したいと思います。 【部会長】 他にご意見等はございませんか。 それでは進行を司会の方にお返しいたします。 【事務局】 ありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第 1 回和泉市環境基本計画専門部会を終了させていただきます。 委員の皆様方には、長時間ありがとうございました。 以上